

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 7月 25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2171000454		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	グループホーム コスモス苑「赤とんぼ」		
所在地	郡上市白鳥町白鳥405番地 (電話) 0575-83-0178		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年7月15日	評価確定日	平成20年8月20日

【情報提供票より】 (平成 20年 6月 20日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 10月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	14 人
職員数	24 人	常勤 10人, 非常勤 14人, 常勤換算	11.9人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要 (平成 20年 6月 20日 現在)

利用者人数	14 名	男性 3 名	女性 11 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 89 歳	最低 80 歳	最高 96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	鷺見病院、白鳥病院、慈恵中央病院、西村歯科医院
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、市の北部旧・白鳥町の中心、駅から徒歩3分の距離にあるが、広大な敷地の周囲は母体医療法人が経営する幾つかの介護施設と喫茶店が点在し、イングリッシュガーデンの緑も増えてきた。幼稚園児の鼓笛隊、小学生の子ども太鼓、夏の盆踊り「白鳥おどり」等がホームの駐車場で行われ、利用者の楽しみになっている。経営者は夫妻揃って医療の一線に立ちながら、先代からの医院経営に加えて介護事業を興し、その1つであるこのホームも「自分が将来入りたいようなホームをつくる」との願いで運営している。「24時間・365日切れ目なく暮らしを支える」をモットーに地域の医療・介護の両面に貢献し、家族アンケートの満足度も高い。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題では、面会記録簿のカード方式化、非常用飲料水と食糧の備蓄、防災体制図・緊急連絡表の掲示等は改善されている。その他は継続課題となっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は自己評価及び外部評価で改善すべき課題を話し合っ確認し、87項目中17項目を特に取り組んでいきたい項目として選定し、努力している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政・自治会長・民生委員・家族会などの参加を得て、隔月の開催を努力している。ホームの行事や報告案件が多いが、地域から期待されるホーム像などを話し合っサービスの質的向上をめざしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月「苑たより」が発行され、担当者からは利用者の状況が書面で報告され、必要があれば電話連絡もしている。意見箱が玄関口に設置され、家族会があり、運営推進会議には家族も出席している。重要事項説明書にはホームの苦情担当者名と外部の苦情申立て機関が明示してあり、家族の意向聴取に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事には積極的に参加し、敷地内の喫茶店は一般の人でも利用出来る。ホームの駐車場では幼稚園児の鼓笛隊、小学生の子ども太鼓、夏の白鳥踊りなどが恒例となって催され、利用者の楽しみとなっている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「見守ります」「見逃しません」「笑顔を引き出します」の理念は、元々このホームの理念としてつくられたが、今では法人全体の理念にもなっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	先代からの医院経営に加えて、介護事業を興し、夫妻揃って医療の一线に立ち、地域の医療・介護に貢献している経営者の願いは、職員が中心となってつくった理念になって表わされ、そして実践されている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事には積極的に参加し、敷地内の喫茶店は一般の人でも利用出来る。ホームの駐車場では園児の鼓笛隊、児童の子ども太鼓、夏の白鳥踊りなどが恒例となって催され、利用者の楽しみとなっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善課題であった防災体制・緊急連絡先一覧、面会記録簿等は改善されている。自己評価87項目中17項目は自ら取り組みたい項目として積極的に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議はホームの行事や報告案件が多いが、行政・自治会長・民生委員・家族会などの参加を得て、隔月の開催を目標としている。母体法人経営の隣接のグループホームと一緒に開催されている。	○	地域との交流がより一層進展するよう隔月開催を定例化し、励行が期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からは有形無形の支援を受けており、担当者レベルの定期的な交流機会がつけられている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「苑たより」が発行されて各家族に送られ、担当者からも利用者状況が書面で報告され、必要があれば電話連絡もしている。金銭管理は来訪時に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱が玄関口に設置され、家族会があり、運営推進会議にも家族が出席している。重要事項説明書にはホームの苦情担当者名と外部の苦情申立て機関が明示しており、家族の意向を汲み取ろうと努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人組織内の人事異動や離退職はある程度はあるが、少数精鋭の濃密なケアが行われており、利用者へのダメージを防ぐ配慮がある。利用者家族へは便りとともに職員の異動が通知されている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は採用後の研修などで人材育成が図られ、法人内外の研修・勉強会などの機会は多い。AED（自動体外式除細動器）講習もある。職員の休憩時間は確保され、休憩室は別室であり、自宅に帰る人もいる。懇親会や慰安旅行も毎年行われている。	○	パート職員についても内部・外部を含めた研修体制の確立が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同じく医療法人経営のグループホームとは、情報交換が行われている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同一敷地内にあるショートステイを利用し、その後に入居する利用者もあるが、入居直後は格段の配慮でケアしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「人生のパートナーになっていけるように」という職員の願いは実践され、利用者同士の会話や気遣いも楽しい日常生活である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	この6月から、月1回、2名の市の介護相談員の派遣を受け入れ、利用者の意向の汲み取りに一層の努力が行われている。	○	利用者の概要を把握する資料として「基本情報・利用者台帳・利用者個別情報・入居者サマリー・フェイスシート」などが使用されているが、統一様式に1本化し、入居後も重要情報は追記されたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族に相談し、職員が課題や解決策などを話し合い、医師でもある理事長も会議に参加して介護計画書を作成している。計画書には家族署名欄とともに「家族意見欄」も設けられている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヵ月毎の見直しを行っているが、状態の変化があれば随時見直しが行われている。介護の状況は綿密に記録されており、「日常生活動作の状況・ケアチェック表」も使用されている。	○	建物の構造上1階と2階、および新館と居室が3ヶ所に分かれており、職員1名の夜間対応は、職員の負担が大きいと思われるので、見直しが望まれる。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人は多くの介護事業を経営し、医師である経営者は日中何度も出入りしている。歯科・理美容院への通院支援も行っている。元美容師の管理者が自らヘアカットを行う事も多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来からのかかりつけ医の受診には協力し、通院支援も行っている。協力医も3病院・1歯科医院があり、医師である理事長は隣接する自宅から日常的に出入りし、医療の面でも手厚いものがある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族の希望に対応して自然な看取りを行う予定である。しかし、当面は世間一般の受け止め方も勘案し、自宅又は協力病院へ入院の協力を求める方針である。	○	斯業の先達として他の施設の範となる様、重度化や終末期における対応マニュアルや、本人・家族の当面の希望・意思書等の書面化を図られることが期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	玄関におかれた面会記録簿はカード方式に改められており、トイレ介助などは利用者の尊厳に配慮した適切な声かけが行われている。	○	前回の改善課題でもあった1階の食堂・居間に近いトイレは使用頻度が高いのに狭くて支援が難しく、利用者尊厳の観点から、廊下には使用時のプライバシーへの配慮が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員と利用者だけではなく、利用者同士の会話も多い。押し付けではなく、本人の気持・意向・希望の把握とその支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各利用者の食器には名前の貼付も工夫され、音楽の流れるなか、利用者同士の会話も弾み、食事をしている。食後の下膳・清掃も役割分担されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回、月～土曜日、午後の時間帯の入浴ではあるが、それ以外の希望にも出来るだけ対応している。リフト浴もある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	絵・園芸・歌・料理・ゲームとそれぞれその人なりの特徴が活かせるよう配慮した支援が行われており、樹齢500余年の桜の名木で有名な善勝寺の花見・誕生会・ゲーム大会などのイベントも行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には出来るだけ外出を誘導している。建物外周にはイングリッシュガーデン風の緑が多くなってきて楽しめる。車イス利用が7割近くあり、外出には個人差がある。	○	足が弱い人や車イスの人でも、たとえ数分であっても外出し、散歩や外気浴が出来る支援が欲しい。また、外出が困難な人には2階や新館のテラス等を活用した外気浴が望まれる。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の出入りは表通りに近い玄関より、職員の目が行き届きやすい食堂脇の裏口がよく利用されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常用飲料水や食糧の備蓄、防災体制表や緊急連絡先の掲示等は改善されてある。地域にも協力は依頼しており、今後は、合同の防災訓練を検討している。	○	階段がやや狭いので、非常用階段のスムーズな利用やスプリンクラー設置についての検討が望まれる。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成し、栄養バランスをチェックしている。食材は地元商店が納品し、職員が調理し、食事・水分の摂取量はバイタルチェックとして記録もされ、服薬支援も適切に行われている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	鉄骨2階建ての外装は、洋風パネルであるが、内部は木質主体で広く、窓はやや腰高ではあるが大きく、階段はやや狭いが、全体として機能的に造られてある。廊下には籐の椅子、壁にはちひろの絵も飾ってある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は利用者好みのものとなっている。馴染みの生活用品の持ち込みは勸奨されているが、比較的シンプルである。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。